



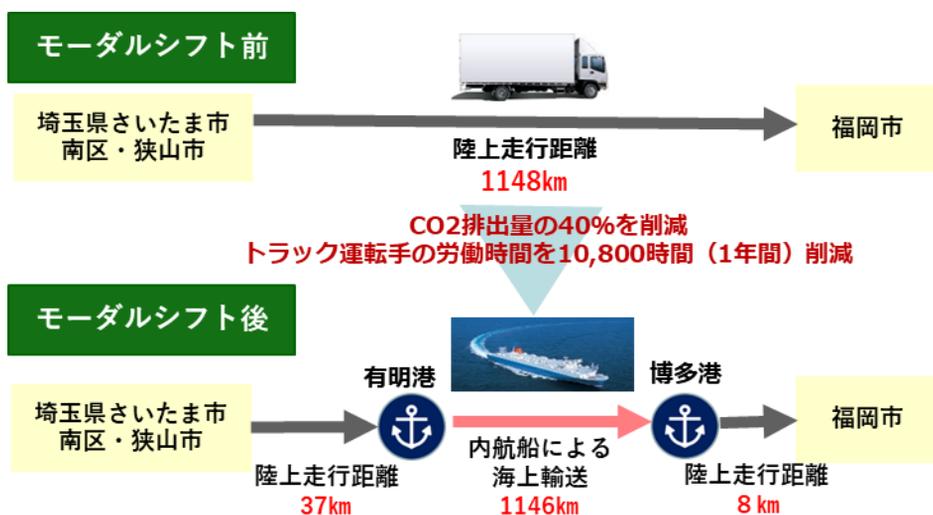
社名の由来である  
“若きウェルテルの悩み”のヒロイン  
「シャルロット」

株式会社ロッテホールディングス

2026年3月23日（月）

## ロッテ、環境負荷低減に貢献した企業として 令和7年度「海運モーダルシフト大賞」を受賞 ～CO2排出量40%削減とドライバー労働時間の大幅削減を実現～

株式会社ロッテ（本社：東京都新宿区、代表取締役社長執行役員：中島英樹 以下、ロッテ）はこのたび、株式会社曙運輸（埼玉県越谷市、代表取締役：大野 祐肇、以下、(株)曙運輸）とともにエコシップ・モーダルシフト事業実行委員会が選出する「海運モーダルシフト大賞」を受賞しました。



### ■ 取組み概要

ロッテの埼玉県（さいたま市・狭山市）から福岡県（福岡市）への製品輸送において、(株)曙運輸と協調し、トラック輸送からフェリーを活用しこれまで1148kmであった陸上走行距離を、港までの陸上輸送（37kmおよび8km）と内航船による海上輸送（1146km）に転換しました。本取組みにより、CO2排出量の40%削減と、トラック運転手の労働時間10,800時間（年間）の削減につながりました。

・現在でも珍しい「電源使用の無人トラック」をフェリーに乗船させるスタイルを2007年から確立し、有明港～博多港における海上輸送を継続的に活用しています。2024年7月からは、従来の上下各1日1台の乗船から、1日3台ずつへと大幅に乗船台数の増加を図りました。

・輸送時に発生するCO2の削減だけでなく、船内電源を活用することでトラックの冷凍機から発生するCO2の削減にも貢献しています。これにより車両の延命化だけでなく、冷凍機の発電機の稼働時間軽減にも繋がり、SDGsへの貢献を果たしています。

・輸送効率を高めるために低床の10トン車を導入するとともに、シートパレットを採用しています。庫内空間を最大限に活用することで1運行あたりの輸送量を最大化し、製品1つあたりのCO2排出量が最小限になるよう積極的に工夫しています。



社名の由来である  
“若きウェルテルの悩み”のヒロイン  
「シャルロッテ」

## ■「海運モーダルシフト大賞」について

国土交通省は、荷主企業および物流事業者等が一体となった環境負荷が少ない海上貨物輸送へのモーダルシフトを促進しています。エコシップ・モーダルシフト事業選定委員会は、海上輸送へのモーダルシフトに特に貢献したと認められる荷主・物流事業者を「優良事業者」として選定し、中でも革新的な取組等によりさらに貢献度が高かったと認められる企業に対し、海事局長より「海運モーダルシフト大賞」を授与しています。令和7年度は、24件46社に対して優良事業者表彰が行われ、そのうち2件4社に対して大賞が授与されました。

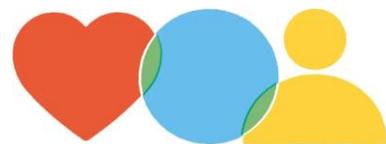


表彰式にて、  
ロッテ取締役 平田広志（前列左から2番目）  
SCM本部物流部 山本豊（同列左端）

ロッテでは、サステナビリティ目標「ロッテ ミライチャレンジ 2048」を掲げて、サステナビリティ経営を推進しています。その中で、2028年度までにエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量（Scope\* 1、2）を2019年度比で23%以上削減すること、さらに、2048年度までにカーボンニュートラル達成を目標に掲げており、達成に向けて省エネルギー活動と再生可能エネルギーの活用を推進しています。

サステナビリティ目標「ロッテ ミライチャレンジ 2048」

<https://www.lotte.co.jp/corporate/sustainability/>



ロッテミライ  
チャレンジ 2048

創業100周年までに、未来のために実現したいこと